

平成26年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	関市立桜ヶ丘小学校		
実 施 期 間	平成26年10月31日(金)～11月29日(土)		
実 施 概 要	①「ほほえみ福寿の家」への菊花届け (4年生) ②桜ヶ丘ふれあいセンターふれあい文化祭 (菊の展示、作品の出品・児童による「よさこいソーラン」の披露) ③PTA資源回収 ④PTAもちつき大会 ⑤一人暮らしのお年寄り訪問 ⑥家庭地域参加日(家族参観)		
実 施 内 容	学習・取組の分野 <input type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 歴史 <input checked="" type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 産業 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
	公開の方法 <input checked="" type="checkbox"/> 授業公開 <input checked="" type="checkbox"/> 成果発表 <input checked="" type="checkbox"/> 交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会等 <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
来 校 者 数	保 護 者	① 420 人	計 ① 426 人
	地 域 関 係 者	① 6 人	
実 施 状 況	①「ほほえみ福寿の家」への菊花届け 10/31(金) ・1学期から育ててきた菊を老人保養施設「ほほえみ福寿の家」に届けた。 ②桜ヶ丘ふれあいセンターふれあい文化祭参加 11/1(土) ○4年生児童による「よさこいソーラン」の披露 ○絵・工作・習字の作品、菊花の展示参加 ○ふれあい文化祭催し行事への児童参加 ③PTA資源回収 11/9(日)7:50～9:30 ・親子の参加による、資源回収の実施。 ④PTAもちつき大会11/9(日)9:30～12:30 ・親子の参加による、もちつき大会の実施。 ⑤一人暮らしのお年寄り訪問 11/12(水) ・6年生による、一人暮らしのお年寄りにお弁当配布にあわせて訪問し、お手紙を読んだり会話したりした。 ⑥家庭地域参加日 11/29(土) ○8:30～10:15 授業参観 ・1年 生活科「クリスマスリース作り」保護者と一緒に活動する。 ・2年 生活科「着せ替えゴマとどんぐりゴマ」 ・3年 総合的な学習の時間「凧作り」凧の会の指導による凧作り ・4年 音楽、総合的な学習の時間「音楽発表、かるた会」 保護者に音楽発表をしたあと一緒にかるた会を行う。 ・5年 体育「ボクササイズ」保護者と一緒に活動する。 ・6年 家庭「食育マイスター」「親子で食事のメニュー作り」 ○10:45～12:10 PTA家庭教育学校人権講演会 「ありのままのあなたが素晴らしい」南 修治 先生		

成果及び課題

成果

- 自分たちが、1学期から育ててきた菊を地域の方や近隣の施設に展示することで、活動に対して満足感や成就感を味わうことができた。
- 「桜ヶ丘ふれあい文化祭」に参加することで、地域に支えられている自分を自覚するとともに、子供たちの踊りや作品展示が地域を盛り上げる力になった。今年度は、雨のため外で「よさこいソーラン」を踊ることはできなかったが、室内で、3グループに分け、3回同じ踊りを披露した。地域の方から、手拍子やかけ声をかけてもらい大変充実した会になった。
- 資源回収はPTA行事であるが、親子で協力して取組むことで親子の絆を深めることになっている。
- 資源回収終了後、PTA主催による「親子でもちつき大会」に80名程参加した。もちをついたり、食べたりして親子でもちつき大会を楽しむことができた。
- 家庭地域参加日では、3年生の凧作りには、関凧の会の4名の方が参加して頂き、凧作りの指導を頂いた。しかし、あいにくの雨のため、凧揚げはできなかったことが残念だった。
- 人権講演会には360名の保護者や関係者の方が参加した。南先生のお話と弾き語りを聞き、自分の素晴らしさや、生きることの大切さを考えることができた。

<保護者の感想>

「自分のよさに気付かせてくれる人との出会いが、本当に素晴らしいと感じた。自分は、だめな人間と思っている子供に対して、その子のよさを引き出し、実感させることが大切ですね。わが子に対しても、よさを伸ばせるよう取り組んでいきたい。」

「歌詞に込められた生きることの素晴らしさを実感した。歌の力はすごいと思った。」

課題

- ◇4年生の菊づくりから、施設への菊の配布や6年生の一人暮らしのお年寄りの交流等、一つ一つの取組が、点で終わるのではなく、様々な行事等とリンクした年間の見直しが必要。